

平成27年12月22日(火)

## 来年度に向けて3学期の取り組みの概要

## ①本校で育成したい資質・能力の選定

○現在は以下の11個。これを、各項目1～2個に絞り、その資質・能力に焦点化して各教科の授業や、行事や総合的な学習の時間など学校生活のあらゆる場面で育成していく。

**【知識】【スキル】**①課題解決能力 ②知識・情報活用能力 ③表現力 ④コミュニケーション能力  
**【意欲・態度】**⑤協調性・柔軟性 ⑥責任感 ⑦主体性・積極性  
**【価値観・倫理観】**⑧自己理解 ⑨共感力 ⑩公共心 ⑪人としての思いやり

## ②資質・能力の評価について

○1で定めた資質・能力について、生徒の姿がどのようになればよいかという『評価規準』を作成する必要がある。数値としてみとれないものが多いので、行動や思考レベルについて評価できる『ルーブリック』作成が必要である。(難波先生は3段階がよいと言っておられた。)

また、その評価をいつ、どの場面で、どのように行うかといった評価方法も検討事項である。

## 実験・観察活動におけるコミュニケーション能力(表現力)の評価規準例

(北海道立教育研究所附属理科教育センターより引用)

レベル1	レベル2	レベル3
自分の考え方を、科学的なことば、図、絵などを使ってきちんと表現できていない。 (絵・図のみの説明で、ことばでの説明がない)(説明の重要部分が欠落している)	自分の考え方を、科学的なことば、図、絵などを使ってきちんと表現されているが、それについての説明が不十分である。 (考え方の説明に部分的な欠落がある。科学的なことばの使い方が不十分である)	自分の考え方を、科学的なことば、図、絵などを使ってきちんと表現され、しかも、その根拠が十分に説明されている。

## ③教科の授業の見直し

○教科の授業において主体的に生徒が学習する場面を確保する(可能であれば毎時間)。個人思考で考えたことをペアで伝え合ったり、グループで練りあったりする活動を通し知識を定着させ、思考を深め、表現力やコミュニケーション力を身に着ける。

## ④総合的な学習の時間の見直し

○大きなテーマを設定し、それに向けて生徒が主体的に活動していくような総合にしていく。今までの総合のような、『職場体験』や『修学旅行』、『保育実習』など行事ありきで総合を設定するのではなく、生徒が主体的に課題に取り組んでいけるような単元にする。

(例)・1年テーマ『三原の課題を解決しよう』 課題やその解決策を探るための情報収集の手段として、インタビュー体験を行う。

・2年テーマ『職場体験学習から自己を見つめなおそう』 自分がどんな人間か、長所、短所、特性などを調べ、それを活かしたり、改善したりするために職場体験学習に参加する。 など